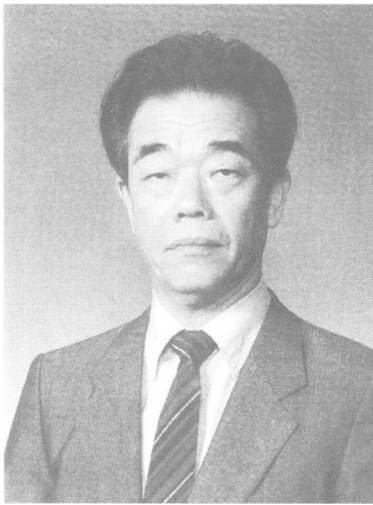


分子医科学研究所設立への道

愛知医科大学名誉教授 愛知医科大学医学部学際的痛みセンター 木全弘治
(分子医科学研究所第三代所長)

設立に貢献された人々：



愛知医科大学医学部
薬学教室 教授
竹谷和視氏



生化学工業株式会社
社長
水谷當稱氏



名古屋大学理学部化学科
教授
鈴木 旺氏

分子医科学研究所設立と変遷：

- ・ 1986 年(昭和 61 年) 愛知医科大学に産学協同研究を可能にする寄附講座設立準備室が設置された。
- ・ 1987 年 木全が名古屋大学から愛知医科大学助教授に転職し、設立の任にあたる。
- ・ 1988 年(昭和 63 年) 愛知医科大学共同研究施設の建物が完成。竹谷教授と生化学工業株式会社の話し合いで分子医科学研究所と命名、その後、竹谷教授と木全の話し合いで英語名を Institute for Molecular Science of Medicine と命名し、大学と会社の双方で承認を経て正式に研究所が発足した。愛知医科大学教授会にて竹谷教授が第一代研究所所長に任命され、就任された。
- ・ 同年名古屋大学を定年退職した鈴木旺教授が研究所教授、及び第 2 代所長に就任。
- ・ 1990 年 鈴木旺教授の定年に伴い、木全弘治が分子医科学研究所教授及び第 3 代研究所所長に就任。
- ・ 2007 年 木全の定年に伴って生化学工業の支援は終了し、分子医科学研究所の今後

は、加藤延夫愛知医科大学学長の多大なご尽力により、生化学工業株式会社との共同研究施設から大学独自の研究所になることとなり、現在に到っている。

この間の生化学工業株式会社からの多大なる支援：

- ・分子医科学研究所の建物の建設費と維持費
- ・研究所設立当初の研究器具と備品などの購入費
- ・共同研究費
- ・研究所所属人員（教授、助教授、助手、研究補助員など）の人件費
- ・生化学工業株式会社からの派遣研究員の人件費
- ・国際学会及び国内学会の開催費用の支援

以上から生化学工業株式会社から有形、無形の莫大なる支援を頂いたことが分かる。関係者一同深く感謝すると共に、現職員にあらわれては、このような支援のもとに現在の分子医科学研究所があることを、心に刻み、今後の研究所の発展に一層の努力されることを祈念します。

略 歴

昭和 39. 4(1964)	名古屋大学理学部化学科卒業後、大学院に進学
昭和 43. 4(1968)	名古屋大学理学部化学科生物化学研究室助手
昭和 50. 3(1975)	名古屋大学理学部理学研究科博士号取得
昭和 53. 4(1978)	米国国立健康研究所 (NIH) Visiting Associate
昭和 62. 4(1987)	愛知医科大学分子医科学研究所助教授
平成 3. 4(1990)	愛知医科大学分子医科学研究所教授および研究所長
平成 5. 7(1993)	愛知医科大学加齢医科学研究所代謝動態部門教授を兼任
平成 19. 4(2007)	名誉教授、愛知医科大学先端医学・医療研究拠点拠点長
平成 24. 4(2012)	名誉教授、愛知医科大学医学部先端医学研究センター研究員

受賞歴

平成 5. 9(1993)	米国国立健康研究所(NIH) Sholar-In-Residence Award
平成 19. 5(2007)	日本結合組織学会学術賞
平成 27. 7(2015)	Hyaluronan 2015 Conference Honor Award

名誉会員

平成 19 年マトリックス研究会、平成 21 年日本糖質学会、平成 22 年結合組織学会、平成 23 年軟骨代謝学会